

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(ユニットフロアC)

事業所番号	2795200027		
法人名	社会福祉法人なみはや		
事業所名	グループホーム桜ノ宮なごみ		
所在地	大阪市都島区中野町1-12-11		
自己評価作成日	令和元年11月27日	評価結果市町村受理日	平成32年3月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階
訪問調査日	令和元年12月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

桜ノ宮なごみの名前の通り、近隣には桜ノ宮神社があり、眼下には桜ノ宮の公園が広がっている、ロケーションには最高の場所です。この立地を生かし、利用者様と公園への散歩を日課とし、気分転換と日光浴、そして歩行訓練も兼ねています。春は盛大に咲き誇る桜を堪能しながら、利用者様職員全員でのお花見会、夏は豪快な天神祭りの花火を楽しみ、秋には紅葉を愛で、銀杏や落ち葉を拾ったりと、四季折々の楽しみを味わっていただいております。施設内でも納涼会、秋のバス旅行、ハロウィンパーティ、お誕生日会、音楽会、ボランティアの紙芝居や、歌の会等を招き、よもすれば怠惰になりがちに日々メリハリを持ってもらえるように工夫もさせて頂いております。また職員研修は外部の講師をお招きし、その筋のプロの方々より興味深いお話をご享受頂き、職員それぞれが自己研鑽に励んでお

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)	
---------------------------------	--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全ての尊厳を尊重するという理念に基づき、等ホームでは職員の心得15か条を実践、管理者と職員との間で話し合い、入居者様、御家族に接している。また〈理念〉〈職員の心得〉をユニット内に掲示し、日々ケアの中で職員同士都度話し合いを行っている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人員として日常的に交流している	地域包括支援センターの協力のもと、回覧板の参加ができた。その関係から地域の様々な取り組みを知ることが出来、なごみ祭り際には、地域の盆踊りのボランティア、区民祭りではおみくじ参加、正月には子供たちの獅子舞の来所、ハロウィーンでは地域の幼稚園児たちの来所でにぎわい、利用者様や子供たちにとっても良い思い出となった。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご家族地域の方々からご相談を受けた時、全職員が対応できるように月に一度、施設で研修を行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会会長様、地域包括支援センターの職員様の参加を頂き2か月に一回の開催をしている。そこで意見交換を行い、全職員へ落とし込み、サービスの向上につなげている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	区の担当者や、地域包括支援センターと情報交換を行い、当施設の行事報告等、写真付きで説明し、地域との連携に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止委員会を設け、身体拘束の有無を各フロアで確認しあっています。やむ負えずそのような手段を取るときには、まずは家族様へ入電し、事情を説明、承諾を得るようにしています。実施時には記録、検討等に努めております。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に及ぶ人間の心理行動等を研修により全職員に周知させ、メンタルヘルス研修やアンケート等を通して、職員の心のケアにも目を配るように努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部講師の司法書士の先生に来所頂き、研修をした。全職員が相談を受けた時に、そのようなアドバイスができるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	初回契約時は、金額、サービス等の説明はご家族が納得されるまで行っている。解約時には、その理由を詳しく伺い今後のサービスの改善につなげるようにしている。また解約後もご家族様からの相談や情報提供に努めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者・職員はご家族様来所時に積極的にコミュニケーションを図り、利用者様の日々の様子を具体的に伝え、さりげなくが家族からの情報を聞けるように信頼関係を築くよう努めている。それら訴えを職員で熟慮し運営に反映させている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議・フロア会議・リーダー会議を通して、職員の意見、提案、要求を聞く機会を設けている。また日々管理者は職員個々とのコミュニケーションを密に図り、職員からの意見を聞き出しやすいように努力している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすい職場を目指し、職員共々話し合い改善に努めている。また環境整備等職員の意見を聞いたうえで、必要に応じすぐに対応しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々の得手不得手を把握し、お互いが補いあいながら、スキルアップできるように努めている。また担当の配置等も、職員の長所を生かしかつ伸ばせるように努めている。また月/1回の研修でもスキルアップできるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センター主催の事例検討会には出来るだけ参加をし、問題点やアドバイス、意見交換を行いサービスに生かしている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人のニーズ、不安感の解消等さりげなくはなせるように傾聴し、その思いに応えられよう、安心した生活が営めるように支援計画を作成している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	またご家族からの意見や要望をこちらへ伝えやすいような雰囲気づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人と家族様の必要としていることを見極め、当施設よりもあっていると判断したサービスがあれば、そちらの情報も提供している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活していく上、食器洗いや配膳、掃除等を協力し合うことで、共助の関係が成り立つ。その様な関係から利用者様も自分の役割を認識されQOL向上につながる		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と共に支えあうという視点から、こちらから可能な限りイベントの参加、外出時の付き添いを依頼するようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔の職場の友人や、親戚、知人が来所されて、時には外出出来るようにしている。その際には涙を流し喜ばれていることもある		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食器洗い、拭き等、利用者様同士役割を分担し、お互いに相談しながら台所仕事をもらっている。役割分担をすることで、お互いに支えあいながら、よりよい関係を気付いていくのを、見守り支えている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も関係は継続し、なごみ祭り等のイベントにも呼び掛けさせてもらっている。また現状を伺い相談にも乗っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや意向を得るのが困難な方に対しても、日々のちょっとしたしぐさや挙動等から本人の思いを汲み取り、本人本位のサービスに結び付くよう心掛けている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前には管理者、介護支援専門員、看護師主任等が本人のところへ面談に伺い、介護医療様々な視点から本人の生活歴を読み取るように心がけている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員一人一人が本人の日々のバイタルサインの把握、精神状態の推移の把握に努め、何をどこまでできるのか等の観察を行い、些細な変化においても職員同士で話あうようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	基本的には本人、家族様の意見を伺い、サービス担当者会議において、看護師、ケアマネージャー、介護主任、介護職員等で意見を出し合いながら、よりよい支援ができるように計画書を作成している。また本人が意向を表明困難な場合でも日々のケアから読み取れることを職員で話し合い、3か月毎のモニタリングに生かすか、計画書を変更する等随時見直しを図っている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	計画書の添ったケアができるように、個人記録の横に計画書を挟んでいる。個人記録には本人の日々の様子、呟き、会話の内容、行動等を記入し、職員全員で共有できるようにしている。それをフロア会議では介護計画の実践状況、見直しに役立てている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々その時の状況で本人のニーズは変化します。そのニーズにこたえられるように職員も柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のイベントには利用者の状態が可能であればお手つだいさせて貰っている。本人も地域に役立っているという連帯感の構築につながっている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時には当事業所の医療連携体制について説明し、今まで本人が掛かっていた医療機関の選択をしてもらい、本人、家族様の希望に沿った形にしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は常駐看護師と情報の交換を密に行い、相談指示を実行している。常駐看護師休みの時も、提携先も訪問看護師との		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には医療機関との連絡を密に取り、またお見舞いに伺い直接本人の状態を把握できるように心がけている。またまた日頃の訪問看護との連携に努め、話しやすい関係づくりをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時には当施設の方針を説明し、同意を得て書面に残しています。また終末期には主治医からのお話し、看護師からの移乗帯の説明等を家族様と、共にかんがみ再作成するようにしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、応急手当等のマニュアルを作成し、宿院全員が対応できるようにしている。また常駐看護師によるレクチャーを受け職員善人が迅速にかつ正確に対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年/2回消防訓練を行っており、年/1回は消防署立ち合いのもと避難訓練、消火器の扱い等を訓練し、その都度反省点や課題について話し合っている。また昨年の台風の経験をもとに備蓄の水、懐中電灯、非常食、簡易コンロ等の常備に備えています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全職員はまず、実践者研修に資料を基に介護の基本的な勉強をし、人権尊重、親切な声掛けや態度を身に着けるように努めています。また介護記録や情報等の漏洩に配慮し、書類等は詰所の中で徹底管理している。また地域主催のイベント等での写真掲載についても、ご本人家族様の了解を得るようにしています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	全職員は日々本人と関わる中でより多くはなし、より多くかかわりを持つようにし、思いを表出しやすい雰囲気づくりをしている。また自己表出が苦手な方に対しては、本人の挙動を観察し、ニーズを探り支援に生かせるようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースを大切に考え、その日その日によって変化する本人の希望に寄り添いようとしている。食事、入浴、散歩もここに合わせた支援をしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月/1回の訪問美容を招き、本人の希望に沿って身だしなみを整えてもらうようになっている。また女性には化粧水やメイク道具等を共に買いに行くこともある		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を共に作って頂いたり、配膳してもらったりと、共に準備を楽しんでいる。また経験談を聞きながら味付け等に生かしている。好きらしいは日々の生活の中で把握していき、全職員が一人一人にあった食事を提供するように工夫している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医師・栄養士の指示のもと、個々に寄っての水分量、カロリー、塩分、糖分の管理をしている。また水分補給、食事摂取も日によって、気分が載らないとき等も、職員は一日を通して、必要量の摂取に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	全職員はB歯科医の研修、勉強会を通じて、口腔ケアの必要性を理解したうえで、個々に合った口腔ケアを施行するように支援しています。また週/1回で歯科医、歯科衛生士による歯科往診にて口腔内衛生管理指導を承っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人、ご家族の意向を優先させ、本人の希望に合った、布パン、リハパン、オムツ等を選んでいただき使用している。個々の排泄パターンを把握し、適時トイレ誘導を行い、トイレで排泄するように努めている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給の際には乳製品を取り入れたり、おやつにはヨーグルトを出すなどし、便秘の予防に努めている。また日々のレクリエーションの中で、体操を取り入れたり、散歩に行ったりと、身体を動かしてもらえるように心がけている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望を表出できる方には、希望に応じた時間に入浴して頂いている。また季節に応じ、夏はシャワー浴、冬はゆったりと浴槽に浸かるようにしてもらっている。皮膚疾患等があるときには、医師、看護師の判断で毎日入浴とされた方には、そのように対応できている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の生活リズムや、行動パターンを念慮し、臥床時間を個々設けている。また安眠してもらえるように日中出来るだけ活動してもらおうようにしている。個々の入眠状況に合わせて、時間さでの臥床介助、離床介助を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員は一人一人の薬情報を把握し、それについての効果、副作用を理解したうえで、服薬介助を行っている。また誤薬等が決して起こらないように、2人態勢で、2重チェックを行っている。服薬後の体調変化については、常駐看護師に報告し、指示を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴、性質、趣味、家族様からの情報等を把握したうえで、一人一人のできる事を模索している。また食器洗い、拭き、等の職員のお手伝いを、一人一人のにあった役割を見つけることで、日々充実した生活を送れるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に散歩という形で外出はしている。普段いけないようなところ、「寿司を食べたい」等の声もしっかりと聞き、職員並びに地域の方々にも協力を得ながら、外食もしてもらっています。また正月、お盆には家族様の協力も得て、外出や外泊の機会も奨励している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	可能な限り本人に管理してもらい、買い物時にはご自身で支払いをしてもらうように支援している。本人が管理できない場合は、本人の手から会計をしてもらい、支払いを行った、買い物をしたという達成感を味わってもらうようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望時にはいつでも電話できるように支援している。また友人等からの手紙の受け渡しも行い、本人がお返事を書くことを希望された時には、手髪を搔くことから投函までの一連を支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用に居間には季節感を取り入れた飾り付けを共に作ったり、利用者さんが書いた習字を飾ったり、楽しんでもらえるように工夫しています。夏には冷房が循環するようにサーキュレーターを回し、冬には乾燥しないように加湿器を設置している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有部分には一人用の食席と、3~4人用のソファを設置し、思い思いにここがくつろげる場所を見つけて過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	契約時には、持ち込まれる物は新たに購入される物よりも、以前からお使いの物をお持ち込みいただくよう勧めている。場所が変わっても、本人の生活スタイルが維持できるように努めている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	本人一人一人にあった、出来る事、わかることを模索し、見守りながら無理をせず安全に行って頂けるよう努めている。またトイレ、台所等分かり易いように表示し、出来るだけ自立した生活を送れるように、声掛け、見守りしながら支援している。		